

20131202

2013年12月2日　日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

<発表>

・ 日テレ ビジョン

“日テレ ビジョン”と名付けた、新しいコーポレートメッセージ「見たい、が世界を変えていく。」を作った。今年の8月28日、社内で行った「開局60年式典」で発表したもので、改めて日本テレビはどういう会社なのかを分かりやすく、そして聞いた方が印象深く受け止めてもらえるようなメッセージにした。来年1月1日から番組やPRスポットなどで展開していく。

・ こども展

著名な画家が子どもを描いた作品を集めた展覧会「こども展」を、来年4月19日から6月29日まで、森アーツセンターギャラリーで開催する。ルソー、ピカソ、ルノワール、モネなどの名画が展示される。

1. 視聴率動向と編成戦略

・ 視聴率データ

先週の週間視聴率は、全日7.7%、プライムタイム11.2%、ゴールデンタイム11.8%だった。全日は同率1位、プライム、ゴールデンは2位。11月の月間視聴率では、全日は1位、プライム、ゴールデンは2位だった。

年間視聴率では、48週が経過し、全日ではトップ、プライム、ゴールデンではライバル局に少し遅れをとっている。残り4週であり、全日とプライムは、今上位にいる局がそのまま走りきると思うが、ゴールデンの競争は熾烈で、最後まで激しい争いになると思われる。年末の特番等、様々な工夫を行い、良い番組を多くラインナップしているので、期待している。

・年末特番

視聴者とスポンサーからの支持、両方を兼ね備えている番組を編成していく方針。毎年、年末恒例の「ダウンタウンのガキの使いやあらへんで！！大晦日年越しSP『絶対に笑ってはいけない地球防衛軍24時！！』」、「さんま&SMAP！美女と野獣のクリスマスSP 2013(仮)」等をまず編成し、その後、ここ何回かの放送で良い結果を出している新しいソフト「のどじまんざ！ワールド～2013聖夜～」等をラインナップしている。

・2013年総括と来期に向けて

ライバル局との激しい戦いが続いている中で、当社の現場スタッフはよく頑張ってくれている。

10月期の水曜、土曜ドラマが期待していたほどの視聴率を取っていないことは、残念に思う。しかし、両ドラマとも内容は非常に良く、新聞紙面のドラマの講評で、高く評価していただいているものもある。最後までしっかり良い番組を作る努力をすれば、それに対する評価は付いてくるものだと思っている。

来年の1月クール以降、優秀なドラマ制作陣には、是非、「家政婦のミタ」のような高視聴率が取れるドラマを制作してもらいたい。

そして、テレビ局全体が高い視聴率を取ることで、テレビの魅力を視聴者の皆様にもっと感じ取っていただきたいという気持ちである。私どもは、まず自局の視聴率をより上げる努力をし、その結果として来年は確実に三冠王を取りたい。

・番組制作方針

日本テレビは、「家族みんなで見られるような番組を作っていくこう」という方針で番組を制作している。この層には見られなくても構わないという考え方をしていない。そして、テレビ離れといわれている若い方々にも、もっと見ていただけるような番組、そこに力を入れて作っていかなければならないとも考えている。

特に若い方々は、様々なデバイスでテレビを見る機会が多くなっているし、タイムシフトという視聴形態もあり、テレビの視聴動向が変わってきている。その変化を踏まえた上で、日本テレビのコンテンツを見てくれる人を、あらゆる世代で、あらゆるデバイスで、できるだけ多く増やすという基本的な考え方にはない。

2. 営業状況

・放送収入

タイムセールスは、10月の番組改編以降、非常に堅調に推移した。ネットタイム、ローカルタイム共に、前年を上回る状況である。

スポットセールスは、10月の売上は前年比で2桁の伸び率となり、単月のスポットシェアは26.8%、前年より1.8ポイント上がった。

11月も引き続き前年を上回る状況で、好調に推移している。化粧品、トイレタリー、運輸、通信といった分野の出稿が好調だったと聞いている。

3. その他

・特定秘密保護法案

今国会の会期末が12月6日に迫る中、現在参議院で審議されている。先日、衆議院を通過した段階で、日本民間放送連盟の報道委員長がコメントを出しているが、基本的にはこの立場と変わっていない。

知る権利、報道の自由、取材の自由などは極めて重要なものであり、それらが阻害されることのないように法案の中身を注視していく。参議院においても、表現の自由を阻害することのないように慎重に審議してもらうことを望んでいる。

・ハイブリッドキャスト

当社では、ソーシャル視聴サービス「JoinTV」を通じて、番組と連動するセカンドスクリーンと呼ばれるタブレット、スマートフォンも含めた連動サービスをすでに実行している。「JoinTV」は、ハイブリッドキャストと一線を画すものではなく、整合性を持っているので、今後もこういった取り組みをさらに加速させることになると思っている。

(了)